

研究主題

「自己を見つめ、互いを認め合いかわりあう子どもの育成」

～互いのよさや違いを認め合う人間関係づくり～

＜三年次計画の三年目＞

研究仮説

- ① 道徳的領域において、心に響く資料の効果的な活用や、思いや考えを伝え合い自分の生き方を見つめなおす、問題解決的な学習を生かした道徳の授業を展開することにより、一人一人の子どもが自他の思いを大切に、信頼・協力し合える子どもが育つであろう。
- ② 総合単元ユニット方式を取り入れることにより、日常生活や全教育活動の中で補充・深化・統合を図ることができ、子どもたちの道徳性をより養うことに繋がるであろう。

三年次計画の三年目の柱は 道徳科における評価の在り方

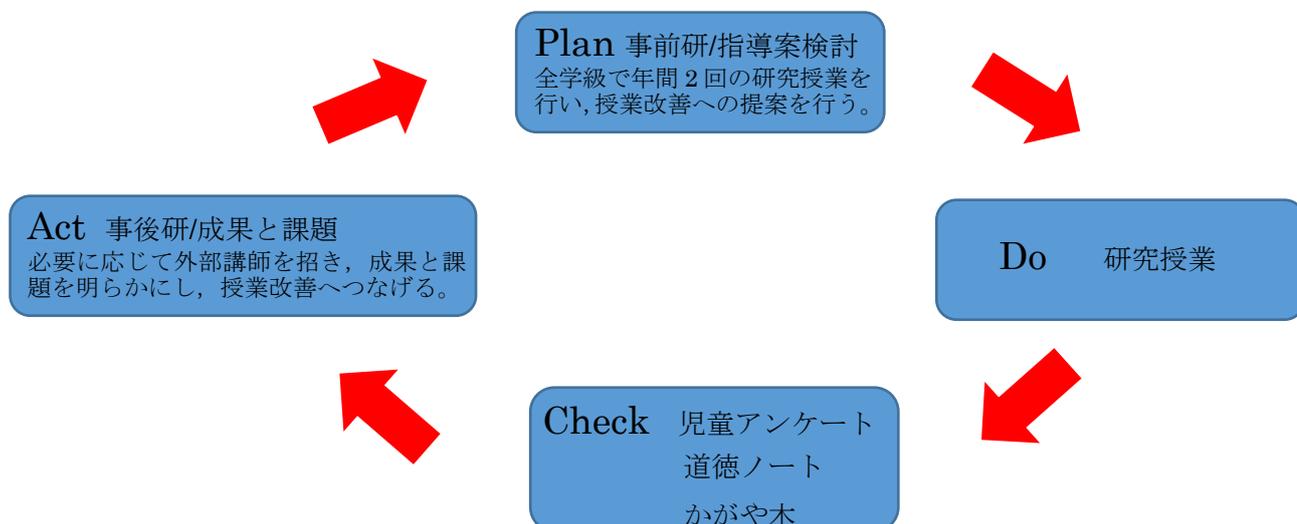
評価とは、児童の側から見れば、自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくものであり、教師側から見れば、教師が目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるものである。

道徳教育における評価は、「児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導の課程や成果を評価し、指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにすること」というすべての教科に共通した考えに基づき、他者と比較するのではなく、児童一人一人のもつよさや可能性などを多様に評価し、児童がその学年や学期において成長した様子や進歩した状況などを大切にすることを基本的な考えとする必要がある。

また、道徳教育における評価は、学校の教育活動全体を通じて行われるものであり、教師が児童の人間的な成長を温かく見守りながら、児童自らがよりよい生き方を求め、努力する姿勢を評価し、そのことを励ましたり、勇気づけられたりすることが重要である。特に、児童への共感的理解が基本的な姿勢として求められる。

【教師側・授業評価】

帯小の授業改善PDCAサイクル



【児童側・自己を見つめ成長を感じられる評価】

1. 評価の基本的な考え方

学習指導要領「第3章特別の教科 道徳」の第3の4において、「児童の学習指導状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすように努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。」と示している。「数値などによる評価は行わないものとする」と示されていることは、道徳科において評価をしなくてよいということではないということである。道徳科における児童の学習状況や道徳科で養われるよりよく生きるための基盤となる道徳性は、児童が道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深める学習の状況であり、児童一人一人の人格の全体に係るものであることから、数値等によって一律的に不用意な評価をしてはならないことを明記したものである。

道徳科の評価において、教師はこれらのことを踏まえ、主体的な判断に基づいて道徳的実践を行い、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養うという道徳教育全体の目標に基づき、それぞれの指導のねらいとの関わりにおいて、児童一人一人の道徳科の学習状況や成長の様子を様々な方法で捉えることが大切である。道徳は、個人個人に帰着する問題であり、道徳性を他者と比較する必要はない。現在の自分を見つめて、現在の自分を伸ばしていけばよいとおさえ。このような意味において、道徳の評価は一人一人のよさを見つめ伸ばし、道徳性を高めているべきだと考え、個人内評価を基本とし、評価は教師が評価するだけでなく、子ども自身の自己評価や他の教師やクラスメイトの他者評価を取り入れていきたいと考えている。

2. 道徳科の評価の具体的な在り方

道徳評価は自己肯定的眼差しを育むことである。

道徳教育で目指すのは人間が本来的にもっているよりよく生きたいとする願いや、よりよい生き方を求めて実践しようとする人格の形成を目指している。その「よりよく生きたい」という当事者は、いうまでもなく一人一人の個性をもった子ども自身である。だから、子ども自身が自らを見つめ、問い続ける自己内対話の姿勢を身に付けさせることが大切なのである。この主体性の発揮なくして子どもの道徳的発達も、人格的成長も期待できるものではない。いわば、道徳評価とは子どもの当事者性に基づいた自己省察プロセスそのものであるとすることができる。その点で、道徳評価、つまり道徳授業での評価も、学校の全教育活動を通じて行う道徳教育評価も、その前提は子ども自身にある「個人内評価」である。道徳評価は子ども自身が自己成長を信じて生きる上で求められる資質・能力としての道徳的意志力を高めるきっかけそのものである。

【6つの具体的な在り方】

- ① 数値による評価ではなく、記述式であること。
- ② 他の児童との比較による相対評価ではなく、児童がいかに成長したかを積極的に受け止め、励ます個人内評価として行うこと。
- ③ 他の児童と比較して優劣を決めるような評価はなじまないことに留意する必要があること。
- ④ 個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価を行うこと。
- ⑤ 発達障害等の児童についての配慮すべき観点等を学校や教員間で共有すること。
- ⑥ 現在の指導要録の書式における「総合的な学習の時間の記録」「特別活動の記録」「行動の記録」及び「総合所見及び指導上参考となる諸事項」などの既存の欄も含めて、その在り方を総合的に見直すこと。

帯小の道徳において考えられる評価法

自己評価（自分の心と向き合う）

★授業における見取りとする。各々の自己課題を大切にしながら**自己省察**としての**自己内対話**での評価
毎時間、自分の心と向き合い、個人内評価を行う。

【自己評価】

- 日常の学校生活や道徳科の授業中に評価したい観点を定め、子どもの言動や表情等を観察して記録する方法。

エピソード評価

★様々な場面における見取りの蓄積
児童生徒が道徳性を発達させていく過程での児童生徒自身のエピソード（挿話）を累積することにより行う評価方法。暫定的に授業時間に発言される記録や記述したものを「短期エピソード」、生活の中での言動や記述を「長期エピソード」として集積。

【観察法】

- 子どもの記述文や発言内容を記録し蓄積していく。

【総合単元ユニット見取り表】

- 全教育活動や道徳科の授業中に評価したい観点を定め、子どもの言動や表情等を観察して記録していく。

ポートフォリオ評価

★成果をファイルなどに収録し学習状況を把握
道徳ノートやワークシートを系統的に蓄積、学期や学年ごとの、中・長期的な評価。教師と子どもたちのカンファレンス（相互評価）

【道徳ノート】

- ノート等にした記述文を後で振り返ることで、道徳的成長を確認し実感していく。

【かがや木】

- 今年度の指導の重点をもとに、学校行事等と合わせて道徳性を育てていく。

【作文】

- 子どもが感じたことや考えたことを自由に記述する。

相互評価

★全教育活動を通して、友だちや保護者からの評価により、自己を見つめ自己を知り、**自己評価**へとつなげる

【かがや木】

- 友だちのコメントから自分や友だちの良さに気づく。
- 保護者のコメントから自分や友だちの良さに気付く。

3. 年間を通した道徳授業での評価

道徳性はこの内面的資質として形成されるもので傍目にはとらえにくいものである。新学習指導要領における道徳評価に関する記述は、「児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある」となっている。ここでの道徳授業評価のポイントは「継続的に把握」して「指導に生かす」という点である。道徳評価は学校全体での道徳教育であっても、意図的・計画的に配置された道徳授業であっても、年間を通しての継続的指導というのが前提である。そのためには各時間での指導が評価に値する内容となっていなければならない。道徳授業評価でいえば、毎時間の授業が充実していて子どもたちが自らの学びを具体的なパフォーマンスとして表出したつぶやきや発言、挙手や起立等での態度表明、ワークシート記述、動作化・役割演技や表情、取組の意欲等々を評価し、それを個々の子どもの道徳的学びの足跡としてポートフォリオしていく。各時間の道徳授業でパフォーマンス評価していくことは大切であるが、それ以上に重要なのは継続的なその学びをポートフォリオしておいて定期的に再度自己評価させたり、相互評価させたりすることで自らの道徳的学びを自覚化させることである。

併せて理解しておかなければならないのは、各々の自己課題はそれぞれの発達段階に即したもので、全員が

共通しているわけではない。よって、個々は自己課題を大切に抱えながら、その解決を図るために全員での共同思考活動になる共通課題の設定がどうしても必要不可欠である。道徳課題では自らの道徳学習を動機付ける自己課題とそれにつながる共通課題の設定という2段階におよび学習課題設定と、一人一人の子どもの未来志向性に満ちた学びの姿をエピソード評価として記録にとどめ、どう自己評価あるいは相互評価する機会を設定するかが大切になってくる。

1年間を通した児童の姿を「あゆみ」を通して保護者にお知らせする

4. 具体的な評価の手だて

手立て 1 道徳科をすすめるにあたって、指導内容の重点化を図る

年度初めに学校長から示された「学校経営グラウンドデザイン」にも豊かな心を育むための道徳性の育成の重要性が記されている。更に、教科・総合的な学習の時間・特別活動等をユニット化した総合道徳を通して、人とのかかわりを意識し、他者を共感的に理解する力を育み、道徳的価値に基づいた人間としての生き方について考えさせるなど、全教育活動の中での道徳教育の推進の必要性も示されている。このことから、本校でも指導内容の重点化を図り、全教職員が同じ方向目標をもった中で子どもたちと関わっていくことが大切なのではないかと考える。

昨年度末にとった「道徳児童アンケート」の結果をみると、帯広小学校の児童は A・B・C・D すべての内容項目に対し、全学年「そう思う」「できている」ととらえている子どもたちは半数を超えている。この結果からも、帯広小学校の「道徳性」はよく育まれているといえるのかもしれない。

しかし、Aの領域「自分自身に関すること」では、自分自身に自信をもっていない児童が多い傾向が見られたのも事実である。そこで、今年度はAの領域を重点内容項目とし、子どもたちのより一層の道徳性の育成をねらっていきたい。

① 今年度の指導の重点と「スマイリング道徳授業」

今年度の指導の重点をもとに、学校行事等と合わせて道徳性を育てていく。

スマイリング道徳授業に関しては、「かがや木」を利用し、全校児童が見に見えるポートフォリオ評価を行っていく。

1年生を迎える会

かけはし活動

今年度の指導の重点

自分の特徴に気付き、よいところを伸ばそうとする気持ちを高め、
自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度ある生活をする心情を育む

たてわり清掃活動

USO

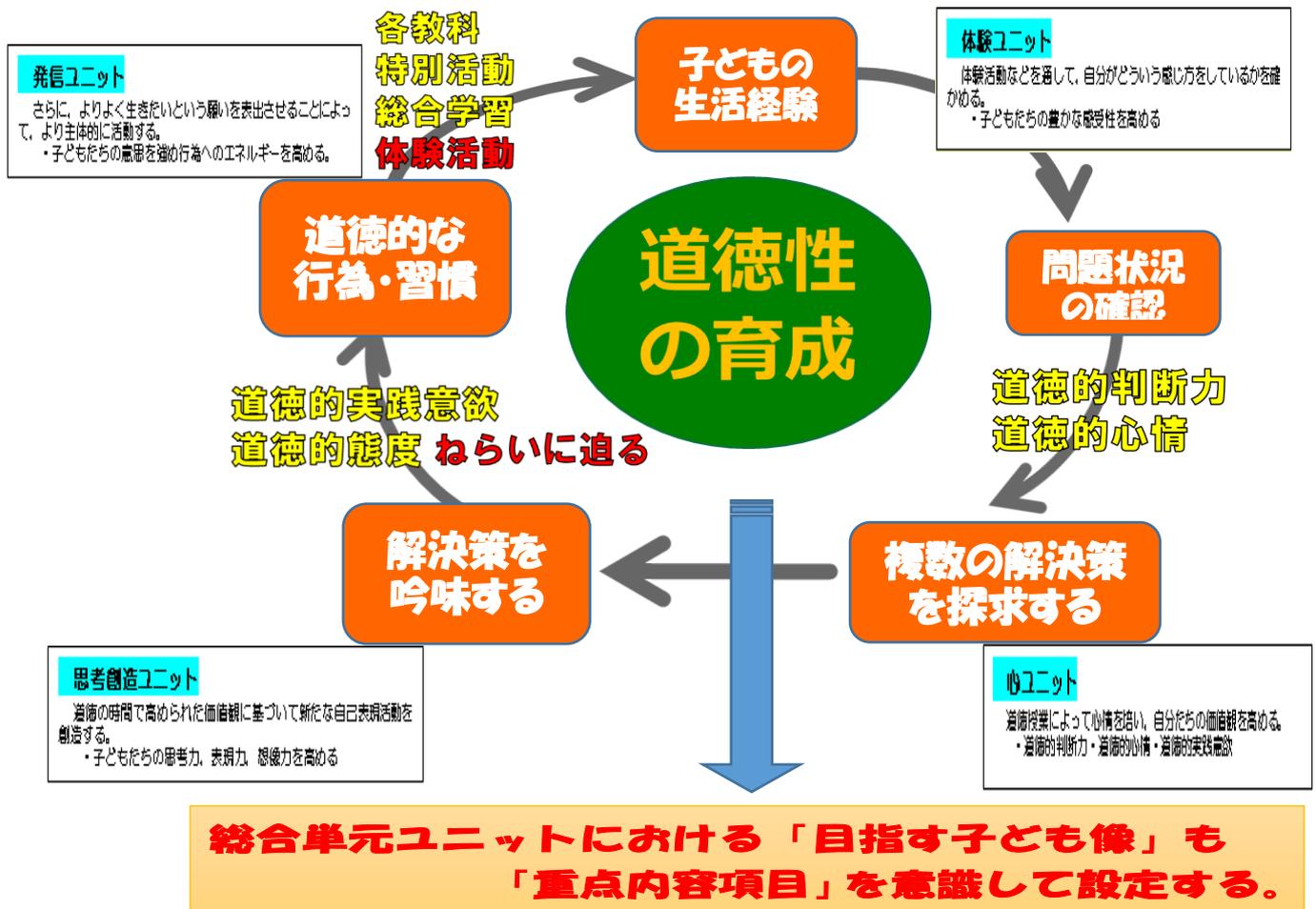
さよなら集会

② 今年度の指導の重点と「総合単元ユニット」

総合単元ユニットとは、豊かな体験活動を土台として、自己をしっかりと見つめ道徳的価値の自覚を深め、それを表現していくシステムである。

子どもたちがいくら正しい知識を身に付けたり正しい認識をしたりしたとしても、それが抽象的で概念的な理解にとどまり、子どもたちの内面的な自覚をともなった「内からの変化」として具体的に見えてこなければ、本当に自分のものにしたことにはならない。

よりよく生きたいと子どもの内なる願いを引き出し、各ユニットで適切な教育的刺激を加えつつ、総合ユニット方式によって、道徳的実践力を高めていきたい。



手立て 2 道徳ノートの活用

授業後に改めて価値と向き合い、書くことにより、深い自己との対話を促す。

道徳科においては、ノート等にした記述文を後で振り返ることで、道徳的成長を確認し実感していく。



5. 道徳科における指導方法

「読み物道徳」から脱却し、問題解決型の学習や体験的な学習などを通じて、自分ならどのように行動・実践するかを考えさせ、自分とは異なる意見と向かい合い議論する中で、道徳的価値について多面的・多角的に学び、実践へと結びつけ、更に習慣化していく指導を目指していく。

【指導方法例】

○読み物教材の登場人物の心理理解中心の学習

○問題解決的な学習 → 主に研修で深めていく指導方法

○体験的な学習

	読み物教材の登場人物の心理理解中心の学習	問題解決的な学習	体験的な学習
ねらい	教材の登場人物の心情を多面的・多角的に考えることなどを通して、道徳的価値の自覚を深める	問題解決的学習を通して、児童一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。	役割演技などの体験的な学習を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。
体験を想起する	① 道徳的価値に関する内容の提示。教師の話や発問を通して、本時に扱う道徳的価値を想起させる。	① 問題の発見。教材や日常生活から道徳的な問題を見つける。	① 資料の提示。資料の概要の説明や登場人物の確認などを行う。
心を耕す	② 登場人物の心情の読み取り。教材を読んで、場面を追って登場人物の心情を読み取り、共感的に理解する。 ◎主な発問例 ○○の時の気持ちはどんなだったでしょう。 ○○はどんなことを考えていたのでしょうか	② 問題の探究。発見した問題について、発問を通してなぜ問題となっているのか、問題をよりよく解決するためにはどのような行動をとればよいのかなどについて多面的・多角的に考え議論する。 ◎主な発問例 なぜ、大切なのか どうすればよいのか 自分ならどうするか なぜそうするのか	② 道徳的価値を含む問題場面の提示。発問を通して登場人物の心情を理解し、何が問題になっているのか状況を把握する。 ③ 再現の役割演技。実際の問題場面を役割演技で再現し、登場人物の心の葛藤を理解するとともに、取り得る行動を多面的・多角的に考える。
考えを想起する	③ 振り返り。本時の授業を踏まえ、各自で自分の生活を振り返る。	③ 問題の解決。問題の解決を踏まえ、問題に対する自分なりの考えや解決方法を導き出す。	④ 新たな場面の提示。再現の役割演技で学んだことを一般化するため、同様の新たな問題場面を提示し、グループで何が問題になっているのかを考え、取り得る行動を多面的・多角的に考える。
発信する	③ まとめ。教師による説話。	④ まとめ。本時を振り返り学習したことを今後どのように生かすことができるかを考える。	⑤ 感想を聞き合ったり、ワークシートに記入したりして自分の取り得る行動について振り返る。



帯広小学校で目指している授業スタイル

※文部科学省道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議配布資料 参照

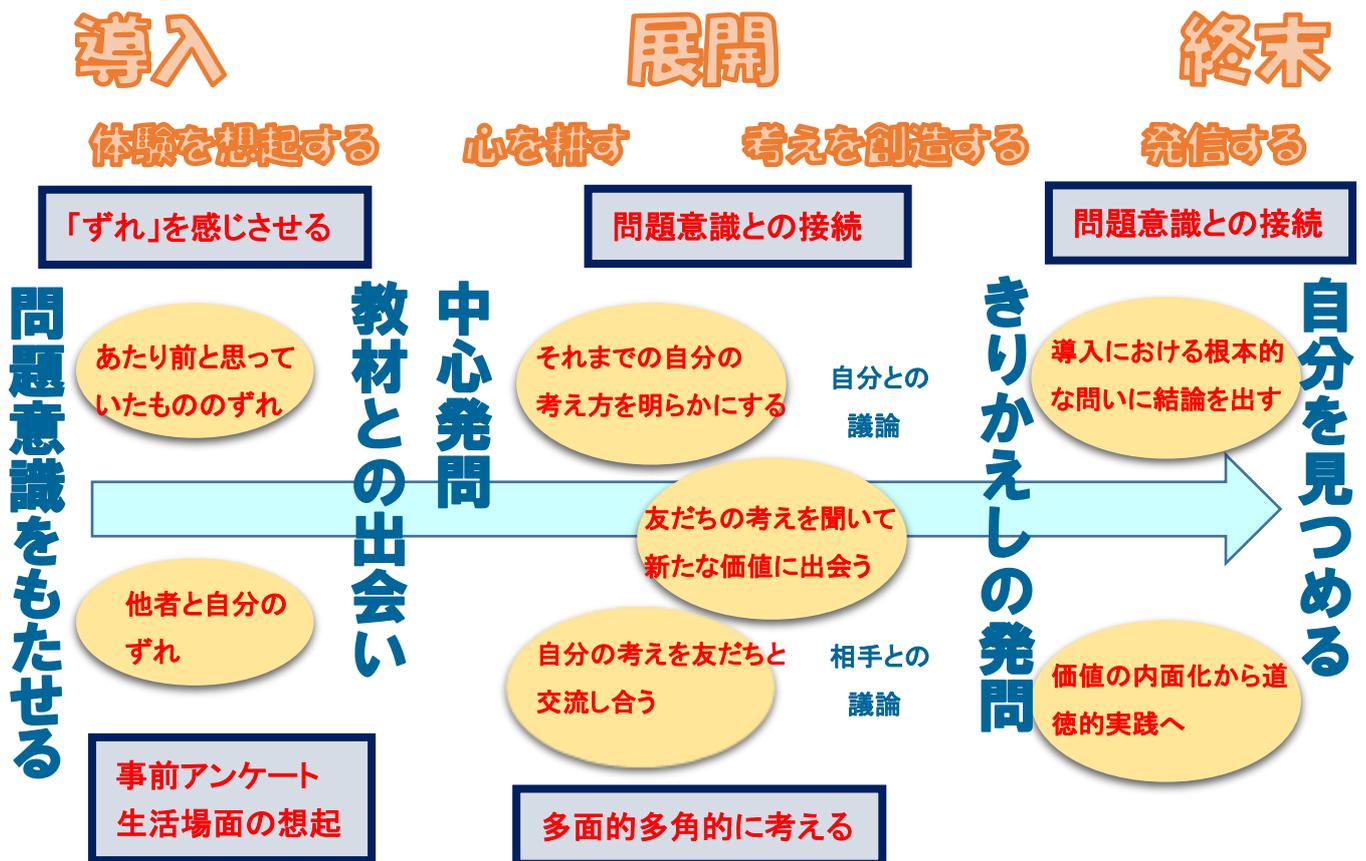
問題解決的な学習の進め方

- ◎ 道徳的価値に根ざした問題（道徳的諸価値）について自己を見つめ実現するための問題を見つけどうしてそのような問題が生まれるのかを調べ、他者の考え方や感じ方を確かめ、**多面的・多角的**に考えながら課題解決に向けて話し合う。
- ◎ 道徳的諸価値のよさを理解し、自分との関わりで道徳的価値を捉え、道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われるようにする。

問題解決的な学習を進める工夫

- 主題に対する児童の興味や関心を高める導入の工夫
- 他者の考えと比べ自分の考えを深める展開の工夫
- 主題を自分との関わりで捉え、自分を見つめ直し発展させていくことへの希望をもてるような終末の工夫
- 教師と児童，児童相互の話し合い
- 教師の発問の仕方の工夫
- ペアや少人数グループなどでの学習の工夫

帯小における問題解決的学習スタイル



教材に記された問題をふまえること

内容項目に示された理想像と児童の実態を繋ぐこと

多面的・多角的に考える の 捉え方

なぜ、多面的・多角的か。よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うためには、児童が多様な考え方や感じ方に接することが大切で、児童が多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりしながら物事を多面的・多角的に考えることが求められる。

例) 多面的に考えるとは

親切はいいことだけという理解だけではなく、一方では、難しいものであるという方向から考える事。親切については、様々な感じ方、考え方があるという方向から考える事。

例) 多角的に考えるとは

1つの道徳的価値について学習するときに、様々な関連する価値と関連付けて考える事。親切をする時は勇気が必要であったり、感謝が必要であったりすることを教師が意図的に関連付ける指導を行うことは、親切について多角的に考えさせることになること。

物事を**多面的・多角的**に考える指導のためには、物事を一面的に捉えるのではなく、児童自らが道徳的価値の理解を基に考え、様々な視点から物事を理解し主体的に学習にと入り組むことができるようにすることが大切である。

※「特別の教科道徳」授業&評価ガイド 田沼茂紀著 参照

※文部科学省道徳教育に係る評価等の在り方に関する

専門家会議配布資料 参照

※解説道徳編 小P36・76, 中P37・79 参照

帯小の道徳 スマイリング8 ～ 子どもたちの心がかがやく8つの意識統一 ～

- 1 ねらいはすっきり明確に
- 2 導入はさらっと外さず本時の世界へ
- 3 無理なく無駄なく基本発問
- 4 中心発問が命です
- 5 自己を見つめる「書くタイム」
- 6 自己との対話「自己を見つめる」
- 7 道徳ノートは宝物
- 8 板書でトーク 思考の助けになる板書

日常的な言葉の力の育成と 地域・家庭の連携

1. 支持的風土の育成

- ・ 友達のよさを見つけ表現させる場の設定。
- ・ グループエンカウンターなどによる学級づくり。

2. 聞く・話す・対話する力の育成

- ・ 全教育活動を通して「表現する場」の確保と継続的なみとり
- ・ 国語科を中心とした言葉の力の育成

3. 心をつなぐ私たちの道徳の活用

- ・ 子ども、担任、保護者が共に見合っ
て心をつなぐノートづくり。
- ・ 保護者参加型道徳。(参観日)

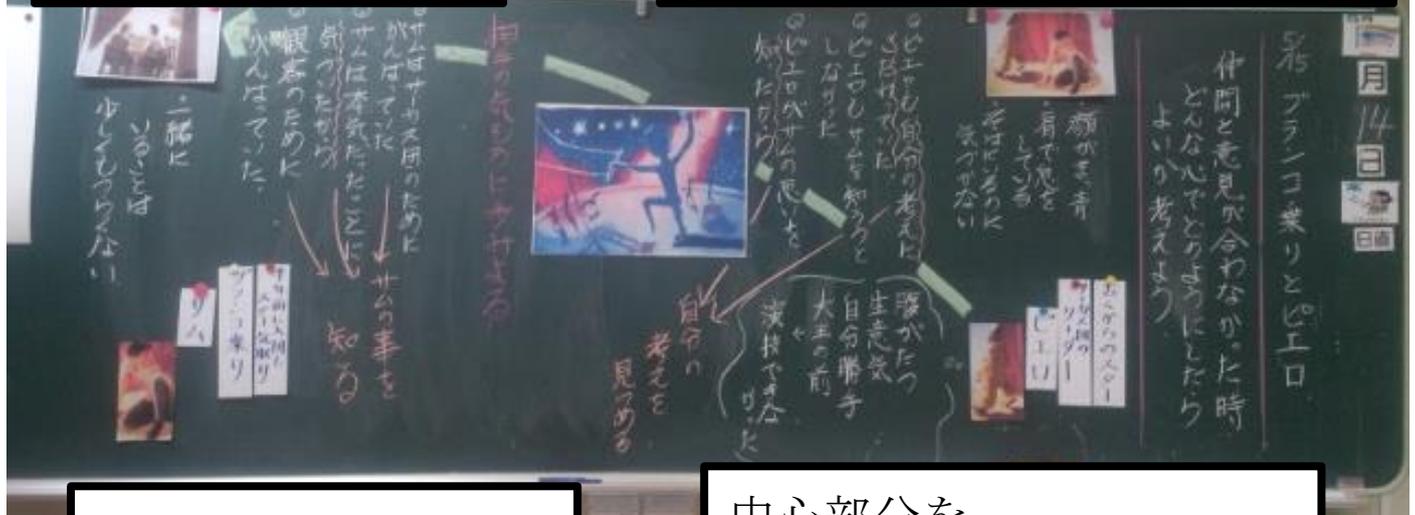
4. 環境づくり

- ・ 道徳コーナー
- ・ 掲示物の工夫
- ・ 花いっぱい学校
- ・ 全校音楽

板書の工夫

キーワードの提示

変容のわかる 対比的な構成



必要な場面図の提示

中心部分を
浮きだたせる色使い

道徳掲示物の作成例



タイトル

学習のポイントとなる言葉

子どもの感想などを活用してもよい

(夏生)

その時間でおさえたい道徳的価値

板書で活用した挿絵などを活用

Aの内容項目は水色 Bの内容項目は薄いピンク Cの内容項目は薄い黄色 Dの内容項目は白 の画用紙で作成

今年度の研究計画

★校内研究授業研・・・各学級 道徳の授業を1本公開する。

★実践研究発表会・・・各学級 道徳の授業を公開する。

5月研 (提案研)	○小林(6-1)	5/17
6月研	○	6/15 ~ 6/23
7月研	○新川(2-1) (指導主事2次訪問)	7/3
9月実践研	全員	9/15
10月研	こもれび学級 ○	10/12 ~ 10/20
11月研	ことばの教室 ○	11/21 ~ 12/8
全校道徳参 観日	全学級 「道徳」	11/28(4, 5, 6) 11/29(1, 2, 3)
2月研	のぞみ学級 ○ ○	1/25 ~ 2/9